

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170700167		
法人名	有限会社 さわやか門前		
事業所名	グループホーム門前		
所在地	佐賀県鹿島市古枝1650番地		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成29年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・介護は先ず見守りから！一人一人がゆっくり、楽しく穏やかに寄り添われるように、相手の気持ちを良く聴いて支援している。・月一回の昼食を兼ねたピクニック(鹿島伝承芸能祭、武雄ゆめタウン、旭ヶ丘公園花見、庭木ダムの桜、祐徳神社、日本庭園、嬉野で茶染め、志田フワ一園、のみの郷のだご汁、回転寿司、うなぎ、紅葉等)。・一人一人に一月ごとの写真入りおたより。・慰問に来られ楽しませている(祐徳民謡会、カラオケ同好会、尺八・オカリナ、踊り小学生等)。・年に一回、落語家さんに来てもらい、地域の方と共に楽しんでいる。・避難訓練の時、隣保班の方全員と消防団7~10名来ていただき訓練している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

祐徳稲荷神社参道の脇に立地しており参道商店街や観光地など入居者にとって地域との交流をしやすい環境となっている。また、ホーム主催で、地域の方々に認知症サポート養成研修やAEDの使い方についての研修会を開催するなど、地域との交流や貢献に努めている。こうした活動の中から、避難訓練の際には隣保班や消防団と言った近隣の方の協力を頂ける関係性を構築している。介護面においても入居者に対し一人ひとりの状態やペースに合わせて支援がなされており穏やかな生活が出来るように努められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につくところに掲示するとともに、毎月のミーティングや毎日の申し送り時などで確認をしながら共有し実践につなげている。	理念について事務所及び休憩室に掲示しており、入職時の面接やミーティングにおいて理念の説明を行ない実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しへの参加、近所の散歩、回覧板の一員となるなど、日常的な関わりの中で交流をしている。	立地が神社の参道にあり、日々の散歩や神社の行事などを通して、地域とのつながりを持っている。また、ホームの研修を地域の方を集めて実施し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各地域の公民館で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の早期発見や早期治療、予防などの啓蒙を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の会議でホームの活動報告などを行ない、課題がある時は助言いただき話し合いを実践に活かしている。また、地域の行事などの情報交換の場、交流の場ともなっている。	運営推進会議を家族や区長など参加され、2ヶ月に一度行い記録されている。会議では年間行事の作成やヒヤリハットの報告、運営方針などの変化による入居者に対する影響などを話されている。参加されていないご家族にはお便りにて報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症サポーター養成講座の共催、運営推進会議への市担当者の参加、市包括支援センター主催の徘徊見守り訓練への参加協働を継続している。また、電話だけでなく会って互いに情報交換を行なっている。	市の担当者とは必要時に話し合いを行っている。認知症サポート研修や徘徊見守り訓練への参加をすることで、市との連携を密にとっている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に参加し、ミーティングの中で職員全員で話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	現在ベッドに4点柵をしている入居者がいる。4点柵を行う上での説明を行ない実施している。身体拘束廃止への研修等を行い身体拘束をなくす努力はされている。しかし、記録の整備については十分とは言えない。	身体拘束を行う上での必要な書類に不十分な点が見受けられる。身体拘束する際に必要な書類の整備をし、入居者に対しより良いケアに取り組む様に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学ぶとともに、毎月のミーティングや日々の申し送り、職員同士言動を注意しあうことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されたい方もおられ、家族会や運営推進会議でも学ぶ機会をつくり、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行っているつもりだが、足りないところは、再度話したり、改定があったときはレジメを作って視界していただけるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を表しやすい関係づくりに日々努め、知り得た意見、要望はミーティングや申し送りなどで職員間で共有し反映できるよう努めている。	家族会を2ヶ月に一度行い家族の要望を聞く機会を作っている。また、介護計画の作成時、家族の面会時などにも職員聞き取りを行っている。出された意見については、運営会議などで話し合い反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を介して、もしくは代表者に直接、意見や提案をできるような関係づくり、機会づくりに努めている。	ミーティングや申し送りで意見を言われたり、社長や管理者が職員に話しかけ、意見を言える雰囲気を作っている。出された意見は職員全体で解決するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の個性があり、良い面を伸ばし、自信を持って働けるように、悩みごとなども聴き、各職員の家庭の事情を考慮し、希望休は自由にとれるようにしている。またメンタルヘルスチェックを行い、必要な職員には受診を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がいろいろな研修に行けるように、個別の年間計画を作成し各種の研修にバランスよく参加されるようにしている。研修後はミーティングで報告し実践に生かしている。また補助を出し資格取得を促進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿島、太良、塩田のグループホームと毎月交流会で、勉強会や入居者のレク、運動会などもし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は特に密に関わりを持ち、職員各々が知り得た情報を共有しながら、本人が穏やかな生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から発せられることに相談、助言を行なうとともに話し合い一緒に考えていくことで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃から情報収集し、本人や家族等のニーズに様々な視点から情報提供、対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができにくいこと、支援が必要なことは手助けしながら、人生の経験者として敬い職員がわからない、知らないことを教わる場面があることで日常的に暮らしを共にする関係を築くことにつながっていると考える。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を報告し、家族の思いや考えを聴きながら一緒に考えたり、本人との思いの橋渡しになれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続のために必要なことを本人や家族と話し合う、馴染みの人の訪問場所の提供、馴染みの人や場所に出向いたり行事に参加したりしている。	入居後も友人や知人が来られることがあり、本人の部屋で話して頂いている。また、入居者の自宅周辺などへの散歩を通して、馴染みの人や場所との関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同スペースでの席を随時考えたり、行事等で関わり合いができるような場面づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や施設への面会、本人や家族等に会い話をするなど繋がりを大切に思い、その時々に応じて取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あえて聞き取る形はとらず、生活の中での言動から思いや意向をくみ取ることに重点をおいている。また困難な場合は、本人の生活歴やこれまでの関わり、家族等からの情報など様々な視点から総合的に推測している。	普段の入居者とのコミュニケーションを通して、本人の意向や思いを把握するように努めている。また、本人の生活歴や家族への聞き取りをすることで、意向や思いを伝えることが出来ない入居者の意向についても把握できるように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等、担当ケアマネ、医療チームなど、本人に関わる様々な人達と関係し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や知り得た情報等を個人記録に記載、申し送り、ミーティングなどで共有し最新の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者それぞれから話を聴くなどし、ミーティングの場で職員と共有、話し合いをもって介護計画作成をしている。また、職員とは日頃から意見交換を行なっている。	計画作成する時だけではなく、日々の記録や毎月のミーティングを通して、状態の確認や課題について話し合いを行っている。出された意見や課題については、介護計画を意識して、介護記録を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づく記録や日々の意見交換を施設介護支援経過にまとめ、介護計画に反映しているが見やすい記録の書き方を検討中。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	未経験のニーズに対して、本人や家族等関わる方たちと話し合いをもって柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣保班や消防団を交えての避難訓練、民謡会やカラオケ同好会などの催しの慰問など互いに行き来し合っている。商店の落ち葉掃きを声かけしているがまだ実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診は家族対応をお願いしている。必要に応じて職員も付き添い、生活状況などを伝え助言等をいただくようにしている。	かかりつけ医については、入居者・家族が選択することが出来る。定期受診については、家族により対応していただいているが、家族で対応できない時や、状態の変化に医療的専門性が必要な場合には、看護師が電話や付き添いをすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職、訪問看護師に出勤時や電話で相談が常時できる環境にあり、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に出向いてソーシャルワーカーを始めとする地域医療連携室などと繋がりをつくっておくことに努めている。また、看護師や医師に会って話をするにできる限り努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族と看取りの在り方について話しをしたり、家族会やその都度話をし意向を聞いたりしている。グループホームでの終末期、看取り介護に向けてのガイドラインを家族、職員と共に作成中である。	重度化した際には、グループホームにおいて対応できるかについて医師の意見を聞いたうえで、家族と話し合いながらケアを進めている。また、終末期のケアについての研修なども行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ファーストエイド、AED講習を消防署に依頼し、地域の方と一緒に年1回実施を継続している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災、地震、水害想定での避難訓練を隣保班、消防団、消防署、公民館などの協力を得て実施している。非常食を用いての実践も行なっている。	避難訓練を年2回行っている。そのうち1回は消防署の立ち合いがあり、消防団や地域の方などの参加のもと行っている。地震想定での避難訓練も行っており、実際に避難場所へ避難したこともある。また、月に1度は非常口の確認を入居者と行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれの性格を把握し、好まれる言葉かけや対応を心がけている。	トイレや浴室にはカーテンを設置し、直接他者から見えないようにされている。言葉遣いにも配慮できるように接遇研修などを開き、入居者の自尊心に配慮した声掛けを行っている。書類については、事務所で管理され関係者以外が見れないように配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出しやすいように簡単な質問形式にしたり、言葉での抑制に注意し話しやすい環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな生活サイクルはあるが、食事時間をずらしたり活動をお休みにしたり、その時々個々に添った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自発的におしゃれをされた時の声かけや、外出の際の服選びを一緒に行なうなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物の話や献立を一緒に考えながら、同じものを同じ時間に食べている。片づけを一緒に行なったり、外食で食事を楽しむこともある。	普段の会話を通して、入居者の嗜好について把握するように努めている。地域の方の食材の差し入れなどを利用し、入居者とともに食事の準備を行っている。また、近所の食堂などでの食事会なども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み食、ミキサー食、トミとそれぞれに合った食事形態で食事を提供している。飲み物も数種類準備し習慣などを考えながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力の方への声かけ、介助を要する方各々に合った口腔ケアにより口腔内清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報共有し排泄パターンを把握、声かけや介助でトイレでの排泄支援を実施している。	日中はトイレでの排泄を基本方針としている。排泄パターンなどを職員で話し合い、入居者の状態に合わせた排泄時間や、パットなど適切な排泄用品の使用を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	発酵食品や繊維質なものを食事に取り入れたり、散歩や体操などの運動による自然排便を目指す。必要に応じ腹部マッサージを行なう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるよう毎日入浴の準備をしている。また、身体の状態に合わせてリフト浴もできるようにしている。	入居者の入浴は、週に2から3回行っている。入居者の意向や体調に合わせて入浴回数を決めている。1日に入浴する人数を少なくし、入居者のペースで入浴している。入浴の際は、マンツーマンになるので、コミュニケーションを多くとるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムに合わせて休息、就寝できるよう、室温管理やリネン交換など支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイリングしており常時確認できるようにしている。また、臨時薬や定期薬に変更があった場合は口頭での申し送りも行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯たたみ、パン食やコーヒー等の嗜好品、好みの番組の録画、ドライブ等の外出など、それぞれに合った役割や楽しみを準備、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中で希望を聞き取り、月1回の外出計画や、家族との外出などにつなげられるよう努めている。その日の希望は職員間で共有し添えるよう話し合いを行なっている。	地域に神社を含めた観光地があり、散歩などを通して外出している。また、個別に入居者の意向を調査し、外食や買い物などの外出を支援しており、月に一度は外出するように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方には持っていたり、管理が困難な方は家族等に預かってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や絵、置物などを飾ったり、制作された作品を飾ったりしている。また、毎日の掃除や室温管理を声かけし一緒に行っている。	フローアールや壁に入居者が作られた作品が飾られており、クリスマスの装飾など季節に合わせた装飾がなされている。食堂・居間などの室温・湿度について温度・湿度計を設置し、職員が居心地の良い空間作りに配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での広い空間では他者との交流の時間を、居間にはソファや椅子を配置し扉も開閉自由で個人や他者との時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味の道具、本人の好みの物や家族の写真などで飾ることもひとつの提案として入居時、入居されてから、本人や家族等に話している。	入居者が使用される家具について、使い慣れたものを使用されている。家具の配置についても本人やご家族の意向を取り入れている。また、入居者の作品や写真などが飾られており、入居者にとって居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要なところには手すりを取り付け、歩行の安全、転倒防止に努めている。		